

ITを核 商店街に元気

大牟田銀座通

空洞化が進む大牟田市の商店街に、情報技術(IT)を核として若者や市民が集う場を作る取り組みが始まった。名付けて「まちなかシリコンバレー計画」。空き店舗に、IT企業のオフィスと、ITに詳しい有明工業高等専門学校の学生が常駐するサロンを併設。誰でも立ち寄り、相談したり、アイデアを交換したり、気軽に語り合うこともできる。本家シリコンバレーのような「若い熱気」が渦巻くか。

まちなかシリコンバレー計画



完成した事務所の前で、意欲を見せる有明高専の学生たちとIT企業関係者

空き店舗にサロン 高専生常駐

企画したのは、同市本町の大牟田銀座通商店街振興組合(内田康雄理事長)。商店街の2階建て空き店舗(延べ床面積124平方メートル)を利用した。コンピューターソフト開発会社「木村情報技術」(佐賀市)の子会社「ASKプロジェクト」(橋爪康知社長)が賃貸。2階をオフィスに、1階は有明高専電子情報工学科の学生10人が市民と交流するサロンとして開放した。

ら、ホームページやデータベース作りなど、地元企業のIT化に関する相談に応じる。ビジネスマナーやまちづくりの勉強会も開いて、地元の高校生や大学生とも交流を深めていく。事務所の改装費(約200万円)は、大牟田市と振興組合が負担した。

橋爪社長は「10人は即戦力として通用するほどITに詳しい人材。若者ならではのアイデアや発想を形にしてもらいたい」。リーダーを務める有明高専専攻科1年の大塩悠貴さん(20)は「地元の高校生や大学生と交流を深め、先進的なソフトを開発したい。将来は地元でIT企業を立ち上げたい」と張り切っている。

オープンは平日の午後4時～5時。問い合わせ先はnoguchi@ask-project.net (吉塚哲)